



第 44 回 JSiSE 全国大会のご案内

担当者： 全国大会委員会

2019 年度全国大会の開催日と開催場所の予定が決まりました。

開催日：	2019 年 9 月 11 日（水）～9 月 13 日（金）
開催場所：	静岡大学 浜松キャンパス https://www.shizuoka.ac.jp/

是非ご参加ください。大会の詳細は、随時 Web サイト等でご案内いたします。

■ 会場外観



キャンパス正門の風景（左）と会場の情報学部棟（右）

■ アクセス

<http://www.inf.shizuoka.ac.jp/access/>

- ・ 浜松駅より
バスターミナル：15 番
16 番
- 路線 40-48 番のバスで「静岡大学」下車
バスで 20 分



第6回研究会講演募集

担当者： 西野和典（九州工業大学）、西端律子（畿央大学）、鷹岡亮（山口大学）、
浅羽修丈（北九州市立大学）、山本樹（創価大学）、
永田奈央美（静岡産業大学）、長谷川理（武蔵野大学）

■ テーマ：プログラミング教育と情報の科学的理解

■ 開催日時：2019年3月16日（土）

■ 会場：武蔵野大学 有明キャンパス 1号館, 3号館
(〒135-8181 東京都江東区有明三丁目3番3号)
<https://www.musashino-u.ac.jp/ariake/>

■ 趣旨：

2018年3月に高等学校学習指導要領が公示されました。これで小学校・中学校・高等学校すべての次期学習指導要領が公示されました。高等学校の次期学習指導要領は2022年度から年次進行により段階的に適用されます。現行の学習指導要領においては、高等学校情報科について、生徒の卒業後の進路等を問わず、「情報の科学的な理解」に裏打ちされた情報活用能力を育むことが一層重要との課題があげられました。「情報の科学的な理解」は、「情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱い自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解」と定義しています。これは単に情報手段の種類、仕組みや特性を理解することにとどまらず、それらの知識に裏打ちされたうえで情報手段を適切に活用しながら情報活用を実践していくことを含んでいます。次期学習指導要領のもとで、小学校ではプログラミング的思考を育み、中学校ではネットワークを利用した双方向性のあるプログラミングについて学びます。そのうえで高等学校では、情報教育の一つの観点として基盤になる「情報の科学的理解」とプログラミング教育をどのように関連付け授業をデザインしていくのか。さらには、授業デザインだけでなく学習方法、教材開発、小中高の接続性などの議論が活発化することが予想されます。

そこで第6回研究会では、上記についての研究や議論を深めるため、「プログラミング教育と情報の科学的理解」に関連する研究発表を募集します。また、教育の情報化に関連した研究発表や本学会の取り扱う領域における一般研究発表も幅広く募りますので、奮ってご投稿ください。

■ 発表申込締切：2019年1月21日（月）

■ 原稿提出締切：2019年2月7日（木）

■ 発表申込および原稿提出は、下記 URL よりお願いします。

http://www.jsise.org/society/committee/2018/CFP_6th.html

※ このページは 12 月中旬にオープンいたします。

注) 研究会予稿集電子化に伴い、「執筆要項」や「講演申込・原稿の投稿方法」を変更致しました。以下のページをご確認ください。

研究会執筆要領：<http://www.jsise.org/society/pdf/format.pdf>

研究会報告見本：<http://www.jsise.org/society/pdf/sample.pdf>

研究会報告ひな形：<http://www.jsise.org/society/doc/sample.docx>

オンライン講演申込・原稿投稿方法：<http://www.jsise.org/society/committee/pdf/manual.pdf>

■ 発表時間は 1 件 25 分（発表 18 分，質疑 7 分）です。

■ 参加費等：

研究会への参加は無料です。研究報告（講演論文集）は、1,000 円で当日購入できます。研究報告は電子化されており、インターネット経由でダウンロードするか、受付に準備する USB メモリからコピーしていただきます。詳しくは以下のページをご覧ください。

http://www.jsise.org/utility/information/howto_jrr.html

■ 懇親会：

研究会終了後、特集号研究会と合同で懇親会を開催する予定です。会費は 5000 円程度の予定です。後日、第 6 回研究会 Web ページに申込方法（申込先や申込締切日等）を掲示します。

■ お問い合わせ先：武蔵野大学 長谷川理（第 6 回研究会担当委員）

E-mail：osamu_at_ds.musashino-u.ac.jp（「_at_」は、半角の「@」に変更してください）



特集論文研究会講演募集

担当者： 学会誌編集委員会委員長 小西達裕（静岡大学）

■テーマ： 人工知能，IoT がもたらす新たな学習・教育・管理の促進

■開催日時： 2019年3月16日（土）

■会場： 武蔵野大学 有明キャンパス1号館，3号館
（〒135-8181 東京都江東区有明三丁目3番3号）

■主旨：

※本研究会は，論文特集との連動企画です。

人工知能やIoTの新しい技術は，社会の様々な分野で革新をもたらしつつあります。人の膨大な量の学習記録から機械的に特徴を見出すことで，これまでの常識を超える知見を提示しています。また，ネットワークに接続するデバイスの活用は，これまでには実現できなかった新しいサービスを創出しています。こうした社会への大きなインパクトは，教育システム情報学の領域においても，これまでにない発想による新しい学び方，新しい教え方，新しい教育の管理をもたらすと期待を集めています。本研究会は，「人工知能，IoT がもたらす新たな学習・教育・管理の促進」に関する研究発表を募り，新しい教育システム情報学の知識構築を目指します。

■発表申込締切： 2019年1月21日（月）

■原稿提出締切： 2019年2月7日（木）

■参加登録：

2019年3月9日までに，下記URLより，事前に記入ください。

<https://goo.gl/forms/gPlcYmJeooA01jTD3>

研究会当日のご参加も受け付けております。



北信越支部主催ワークショップ 「成果発表を磨く」募集・開催のお知らせ

担当者： 長谷川忍（北陸先端科学技術大学院大学）

北信越支部では、広く教育工学、教育システム情報学を研究する学生・若手研究者の自己研鑽を支援するため、【成果発表を磨く】というワークショップを開催しています。

内容は、論文執筆を目標とした研究のまとめ方に関する講演とともに、学位取得を目指す博士生や論文投稿を目指している修士生による研究発表と、論文執筆と目標とした議論です。過去の3回のワークショップでは参加者より、多くのコメントもいただきました。これらの様子は、北信越支部のWebサイトやFacebookにてご覧いただけます。また、数多くのコメントをいただいた博士課程学生の皆さんは論文採録2本、国際コンペ表彰1名、学位取得4名など、それぞれに成果をあげています。

本年度は以下の内容にて開催します。なお、本ワークショップは、昨年度より、全国の学生会員もしくは会員の皆様が指導されている学生を対象としたワークショップとなっています。

「成果発表を磨く」実践的な機会であり、研究に対する多くの有益なコメントをいただける機会です。翌日5日（火）には学生研究発表会もありますので、学生の皆さんはこれらと合わせて是非ご参加ください。

○北信越支部ワークショップ【成果発表を磨く】

開催日時：2019年3月4日（月）午後

開催場所：しいのき迎賓館（予定 石川県金沢市）

話題提供・討論概要：

申込者には、1件あたり50分の時間が与えられます。

与えられた時間の中で話題提供と討論をしてください。

事前に予稿等の原稿提出は不要です。当日の資料配付等は可とします。

対 象：博士後期課程学生もしくは博士前期課程で論文投稿を目指す者

JSiSE 学生会員またはJSiSE 会員に指導を受ける者

申込方法・〆切：2月8日（金） ※定員になり次第締め切ります。

申込み・お問い合わせ先：長谷川忍（北陸先端科学技術大学院大学）hse-submit@jsise.org

※ 話題提供のタイトル、氏名、連絡先、指導教員の氏名をお知らせください。

北信越支部 Web サイト：<http://www.jsise.org/~hse/>

北信越支部 Facebook：<https://www.facebook.com/jsisehse>



第5回研究会開催案内

担当者： 佐々木整（拓殖大学），三石大（東北大学），光原弘幸（徳島大学），
高木正則（岩手県立大学），鷹野孝典（神奈川工科大学）

■テーマ：新技術と教育情報を活用した教育学習環境の設計／一般

■開催日時：2019年1月12日（土）

■会場：

コラッセふくしま(JR福島駅西口より徒歩3分)

<http://www.corasse.com/access>

■趣旨：

新しい技術の登場は、次世代教育・学習環境の設計・開発・実践について新しい発想を与えてくれるとともに、その実現に欠かせないものとなっています。スマートデバイスやクラウドコンピューティング、IoT、ディープラーニング、ロボット、VR・AR技術など、多様な新技術の利用に基づく教育・学習環境の構築や授業設計がますます重要になっていくことでしょう。

本研究会では、このような新しい技術と教育情報を活用した次世代教育・学習環境について、そのための教授設計も含め、システム・基礎技術の開発、実践、ならびに、新しい教育・学習手法に関する幅広い研究発表を募集し、共に考える議論の場としたいと思います。

また、このようなテーマに沿った発表のほか、本学会の取り扱う領域における一般の研究発表も予定していますので、多くの皆様からのご参加をお待ちしております。

当日のプログラムは、決まり次第下記URLで公開する予定です。

http://www.jsise.org/society/committee/2018/CFP_5th.html

■懇親会：研究会終了後、懇親会を開催する予定です。会費は4,000円程度の予定です。

■お問い合わせ先：

第5回研究会担当委員（代表：拓殖大学 佐々木 整）

E-mail：jsise-sig-5th@googlegroups.com（「@」の部分は、半角の「@」に変えて下さい）



産学実連携による新しい学びの共創のためのイベント 「リサーチ・コ・コ・コモンズ」開催のご案内（関東支部）

教育システム情報学会 関東支部では、産業・学術・実践の3分野の交流を促進し、「産・学・実」の連携（collaboration）による新たな学びの共創（co-creation）を実現するためのイベント「リサーチ・コ・コ・コモンズ」を開催いたします。

教育システムに関連する企業の皆さま、研究者の皆さま、学校・塾など教育現場の先生方や企業で研修・人材育成を担当されている方々などに、出展者・参加者としてご参加いただき、それぞれの立場での開発・研究・実践における裏話、本音トーク、悲痛な叫び(?)などを交えて、最新の教育システムに関する研究開発の状況や、実践における活用事例などに関する情報交換を行う場となるイベントです。

■開催日時・場所

2019年3月2日（土）13時～17時【予定】

早稲田大学早稲田キャンパス【予定】

■当日の流れ（予定）

当日は出展者によるポスター展示を行うとともに、以下のような流れで出展者・参加者に情報交換・議論を行っていただきます。**出展者を入れ替え、2ラウンド実施します。**

- (1) 出展者によるライトニングトーク（各5分）
- (2) 出展者・参加者によるディスカッション(1)（20分）
- (3) 参加者による出展ブース観覧（45分）
- (4) 出展者・参加者によるディスカッション(2)（20分）
- (5) まとめ（10分）

■参加者の方へ

事前のお申し込みは不要です。当日、会場まで直接お越しください。

ご自身の開発・研究・実践におけるお悩みなどを、ディスカッションの場でご披露いただけると、解決の糸口が見つかるかもしれません。ぜひご用意ください。

■出展者の方へ

教育現場に活用可能なシステムを開発している、あるいは開発を検討している企業や研究者の皆さまにご出展いただくことができます。

出展をご希望される方は、2019年2月15日（金）までに下記お問い合わせ先までご連絡ください。

主催：教育システム情報学会 関東支部
お問い合わせ先：jsise-kanto-sub@jsise.org



第3回研究会開催報告

担当者：三好康夫（高知大学），安間文彦（サイバー大学），小西達裕（静岡大学）

■テーマ：センサデバイスを活用した学習支援システム・ツールの開発／一般

■開催日：2018年9月29日(土)

■会場：高知大学朝倉キャンパス 共通教育1号館多目的室

■概要：

2018年度第3回研究会は、9月29日に高知大学朝倉キャンパスにて「センサデバイスを活用した学習支援システム・ツールの開発／一般」というテーマで開催されました。関連学会の全国大会と日程が重なったことや台風の影響が心配されましたが、最終的には、発表件数は6件で、21名の方々にご参加いただきました。小規模な研究会となりましたが、発表後の質疑では活発な議論が行われました。

内容としては、出題問題選択においてRFID等のセンサデバイスからの情報により会話の流れや内容を変化させる会話練習システムや、ピエゾマイクでの筆記音検出や人感センサによる学習活動状況を把握する学習見守りデバイスといった、本研究会のテーマであったセンサデバイスの活用を目的とした研究発表がありました。他にも、Web調べ学習における課題展開の妥当性の診断や、学習者の音声や動画視聴時の表情や姿勢といったマルチモーダル情報からの学習者の知識推定、ドロップアウト率が高くリテラシーの低いセネガルのためのニューラルネットワークを用いたe-Learningコンテンツの質の向上、板書タイプの講義動画の文字情報抽出による動画のインデックス生成、と多様な研究発表が行われました。

研究会後、台風が差し迫っていたこともあり、参加者の方々が急いで帰らざるを得ない状況となってしまったことは少々残念でした。担当者としては、参加者同士がゆっくり交流を深められる場を提供できるよう努めてまいりたいと改めて感じました。

なお、第3回研究会で発表されたタイトルは以下の通りです。

- Web調べ学習における課題展開診断手法の評価
- TVMLを用いた出題問題選択に関する検討
- 学習習慣化及び促進支援のための学習見守りデバイスの設計
- 作問学習における学習者の知識推定を精緻化するためのマルチモーダル情報の活用
- Improving learning through Artificial Neural Networks; Improving content quality using student log data
- 文字認識APIを用いた講義アーカイブ閲覧システムの設計



第4回研究会開催報告

担当者： 松浦健二（徳島大学），柏原昭博（電気通信大学），小尻智子（関西大学），
曾我真人（和歌山大学），長谷川忍（北陸先端科学技術大学院大学）

■テーマ：システムティックなスキル向上支援環境／一般

■開催日：2018年10月27日（土）

■会場：徳島大学常三島キャンパス教養教育4号館202，203室

■概要：

2018年度第4回研究会は，10月27日（土）に，徳島大学の教養教育4号館2階教室にて，「システムティックなスキル向上支援環境／一般」というテーマで開催されました。

19件の発表があり，一部パラレルセッションでの開催となりました。東北，関東，中部，北陸，関西，四国，九州から36名の参加者が集まりました。会場では学生の方々の発表や質疑での活発な参加が見られ，初めて参加する非発表の方なども興味を持って聴講されており，盛会となりました。

内容としては，スキル学習の支援にICTを適用する際に，支援手法自体を構造化したり，その説明を記述したりする，さらにはそれらの実現システムを用いた実験的評価を行うなどといった発表，議論がなれました。スキル学習の対象には，プログラミング，PCスキル，身体知，自転車，音楽，プレゼンテーション，ネットワーク，セキュリティなど様々なドメインが取り上げられており，これらの共通部分や相違部分を抽出・整理し，抽象度を上げて今後議論していくことも本学会の学術的貢献として重要な活動になると思われます。また，授業の分析や評価，方法論の提案などの発表では，最新の知見が報告され，これらも活発な議論が行われました。本研究会の各発表に対する適用技術としては，ロボット，各種センサ，自然言語処理，画像処理，モーションキャプチャ，AR，IoTなどが用いられ，技術的にも高い学術成果が得られている様子が見られました。

最後に，担当の所感ではありますが，徳島という場所は，本州の都市部同様に，意外と交通の便がよくなり，関西，関東，四国内など多くの地域からの参加に際して，プログラムによって容易に日帰りできてしまうということに気付かされました。研究会の後の懇親会も参加者からは大変好評であったことから，ご参加の皆様が情報交換したり交流を深められたりする場が更に広がるよう，広報等に努力して参りたいと思います。皆様の研究会へのご参加を次回以降もお待ち申し上げます。

なお，第4回研究会で発表されたタイトルは，以下の通りです。

- 身体スキル開発における経験・予測・摂動・調整に関する一考察
- 身体部位間の運動タイミング差を調整するための部分的フォーム解析
- Kinectを使った習慣逆転法による癖の改善支援システムの提案
- 医療スポーツ系学生におけるルーブリックを活用したPCスキルチェックからみる情報教育の課題
- グループ学習による電子メールの利用マナーの向上

- Blockly を用いた多言語プログラミング学習支援環境の構築
- 構文解析を用いた C 言語指導コメント支援システムの構築
- アクティブラーニング授業における評価-テキストマイニングによる自由記述分析と授業達成度の関連-
- 複数ペア分のシャトル型コミュニケーション・データに KeyPaSS を適用した質的分析の試み
- 講義ビデオの映像とそこに重ねてスクロールする他者コメントとの組合せが学習者の注目度を与える影響
- 演算子順位法に対する Web ベース学習支援システムの開発
- 和音ブロックの直感的操作による編曲支援システムの開発
- 自転車安全運転指導のための AR を用いた適応的な仮想道路環境の構築 ～仮想道路の適切な位置合わせ～
- 音読時間とポーズ時間の特徴に基づく音読流暢性評価とそのフィードバックツールの提案
- 情報セキュリティウェアネス向上のための意思決定トレーニング環境の提案
- 無線通信理解のための可視化ツールの開発と評価
- 効果的な英文読み合いを行う学習パートナーロボットのデザインと評価
- プレゼンテーションロボットを用いたセルフレビューにおけるエンゲージメント促進
- 姿勢に対する意識・行動変容の実効性～ロボットの励ましによって～



電子情報通信学会 信越支部大会における 教育システム情報学セッション開催の報告 (北信越支部)

電子情報通信学会信越支部大会が 2018 年 9 月 29 日に新潟大学で開催されました。2015 年度から始まった JSiSE 北信越支部セッションには 2 件の発表があり、20 名程度の聴講がありました。

- (1) 声楽を専門とする初学者の周波数成分に基づく音響特徴量の経年変化に関する考察
吉田祥，香山瑞恵，池田京子（信州大学），山下泰樹（長野県工科短期大学校），
山口道子，小畑朱実，谷友博（武蔵野音楽大学），
浅沼和志（長野工業高等専門学校），伊東一典（信州大学）
- (2) 形式検証ツールを用いた暗号教育
紫村彰吾，岡崎裕之（信州大学）

一般的な教科教育よりも暗黙的なスキルを対象とした教育の発表があり，最近の JSiSE のトレンドと関連の深い議論がなされました。形式検証ツールなど他分野の技術を有効活用した研究も印象に残りました。こうしたジョイント企画は支部における発表の機会として重要な役割を果たしており，今後も継続して実施して参ります。

詳しくは，電子情報通信学会 信越支部の Web ページ (<https://www.ieice.org/shinetsu/>) もご参照ください。



2018 年度学生研究発表会発表募集（第 2 報）

担当者： 人材育成委員会

今年度も学生研究発表会を下記の通り開催する予定です。詳細未定の地区もありますが、スケジュールの最新情報ならびに申込み方法は、学会ウェブページにて更新していきます。皆様の積極的な参加・発表をお待ちしております。全国大会との連携企画も検討しております（内容は未定です）。

申込み期限は 1 月下旬、発表原稿提出は 2 月中旬を予定しております。

開催地区 開催都市	開催場所・開催日 実行委員長（連絡先）
北海道	開催予定（詳細未定）
北信越 金沢市	しいのき迎賓館・2019 年 3 月 4 日（月）～ 5 日（火） 長谷川忍（北陸先端科学技術大学院大学）・hse-submit@jsise.org
関東 湯河原町（予定）	未定・2019 年 3 月 4 日（月）～ 5 日（火）（合宿形式） 山本 樹（創価大学）・jsise-kanto-sub@jsise.org
東海	開催予定（詳細未定）
関西 大阪市	関西学院大学大阪梅田キャンパス・2019 年 2 月 28 日（木） 小高 恵（太成学院大学）・kotaka@tgu.ac.jp
中国 広島市	広島市立大学サテライトキャンパス・2019 年 3 月 2 日（土） 岩根 典之（広島市立大学）・iwane@hiroshima-cu.ac.jp
四国 鳴門市	鳴門教育大学・2019 年 3 月 14 日（木） 光原 弘幸（徳島大学）・mituhara@is.tokushima-u.ac.jp
九州 大分市	J:COM ホルトホール大分・2019 年 3 月 9 日（土） 坪倉 篤志（日本文理大学）・tsubokura@nbu.ac.jp
沖縄 那覇市	琉球大学・2019 年 3 月 1 日（金） 谷口 祐治（琉球大学）・taniguchi@cc.u-ryukyu.ac.jp

発表方法： 口頭発表またはポスター発表（ポスターは会場によっては募集していません）

留学生の方の発表（英語・日本語）の発表も歓迎します。

発表資格： 大学生（短大生，高専 4・5 年生・専攻科を含む），大学院生（修士・博士課程在籍者）．
社会人学生も参加可能です。

※いずれも JSiSE 正会員である推薦人（指導教員または関係者）の推薦が必要です。

発表場所（地区）：自分の所属する大学等の場所と一致していなくても OK です。



学会誌特集号論文募集

担当者： 学会誌編集委員会委員長 小西 達裕（静岡大学）

「人工知能，IoT がもたらす新たな学習・教育・管理の促進」

論文投稿締切：2019年6月3日

2020年4月1日 発行予定

人工知能やIoTの新しい技術は，社会の様々な分野で革新をもたらしつつあります．人工知能技術は，人の膨大な量の学習記録から機械的に特徴を見出すことで，これまでの常識を超える知見を提示しています．また，ネットワークに接続するデバイスの活用は，これまでには実現できなかった新しいサービスを創出しています．こうした社会への大きなインパクトは，教育システム情報学の領域においても，これまでにない発想による新しい学び方，新しい教え方，新しい教育の管理をもたらすと期待を集めています．本特集号は，「人工知能，IoT がもたらす新たな学習・教育・管理の促進」に関する研究論文を募り，新しい教育システム情報学の知識構築を目指します．

1. 対象分野

人工知能，IoT 技術を駆使する，人の学習に関する研究，人の教育に関する研究，教育管理に関する研究を募集します．機械学習やビッグデータ，データマイニング，ロボットを活用・応用する研究や，IoT を駆使する研究，ラーニング・アナリティクス，学習・教育の調査・分析・予測，学習・教育の管理，教育の IR です．これらキーワードの周辺を含め広く募ります．

2. 論文種別

すべての種別（一般論文，実践論文，ショートノート，実践速報）の論文を募集します．なお，査読を通して，異なる種別での採録となる場合があります．

また，内容により一般号掲載論文へ変更する場合があります．

3. 投稿要領

学会誌原稿執筆要領に準じます．詳細は学会 Web ページをご確認ください．

投稿の際は，次の点にご注意ください．

- 「投稿種別」について「特集号」を選択ください．
- 特集論文研究会で発表された方は，投稿情報入力の際，「事務局への連絡事項」の欄に，特集論文研究会の発表題目，発表番号を記入下さい．
- 英文で投稿される場合は，本学会英文誌へ投稿ください．

4. スケジュール

論文投稿締切： 2019年6月3日（月）
採録通知予定： 2019年11月初旬頃
学会誌掲載： 学会誌 Vol.37, No.2, 2020年4月1日発行予定

本特集号と同一テーマの研究会「特集論文研究会」を開催します。是非、ご発表・ご参加ください。
詳細は開催案内をご覧ください。

特集論文研究会： 2019年3月16日（土）
会 場： 武蔵野大学 有明キャンパス 1号館, 3号館
(〒135-8181 東京都江東区有明三丁目3番3号)
発表申込締切： 2019年1月21日（月）
原稿提出締切： 2019年2月7日（木）

5. 編集委員

委員長： 小西 達裕（静岡大学），委員： 学会誌編集委員

6. 問い合わせ

全 般： 松田 憲幸（和歌山大学）
E-mail: matsuda@sys.wakayama-u.ac.jp
Web投稿： 編集事務局
電話： 03-5389-6492
E-mail: jsise-edit@bunken.co.jp
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19 株式会社国際文献社 長澤



研究会報告年間購読の申し込みについて

研究会報告は、2016年度からは印刷媒体での研究会報告は廃止し、オンライン上でタイムリーかつオンデマンドな閲覧が可能となるように、研究会報告を電子化しています。保管などの手間もなく、大変便利に活用できるようになっております。

是非、研究会報告の「年間購読」のお申し込みをご検討いただければ幸いです。研究会当日も電子媒体として販売する予定ですが、年間購読がお得となっております。

- ・年間購読:4,000円(定例研究会年6回、特集研究会1回、計7回分を含む)
- ・当日販売:1冊1,000円

新規での「年間購読」申込みにつきましては、年会費をお支払いいただく前に会員種別変更申込をお願いいたします。以下の手順でお申し込みください。すでに年間購読をいただいている方は手続き不要です。

- 1) 年会費納入手続きの前に、下記フォームにて事務局 (secretariat@jsise.org) まで年間購読申込をしてください。

=====
※研究会報告年間購読希望
会員番号 (お分かりであれば) :
お名前 :
所属 :
連絡先 e メールアドレス :
=====

- 2) 手続き終了後、事務局より会員種別変更完了のご連絡を差し上げます。
- 3) マイページから年会費と合わせて年間購読費をお支払いください。

※年会費納入後に「年間購読」を申込みご希望の場合は、事務局 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。年間購読の請求書をお送りし、会員種別変更の手続きを進めさせていただきます。



教育システム情報学会研究会における 不適切な質問等への対応について

教育システム情報学会 研究会委員会

教育システム情報学会研究会は、教育システム情報学に関わる最新の研究や実践に関する情報交換および意見交換を通して、学会の発展、ひいては当該研究分野の発展において極めて重要な役割を果たしています。さらに、専門領域の近い研究者による緊密なネットワークが大学や研究機関を越えたところで構成されているため、若手研究者の発掘や育成、今後社会に出る学生の教育の場としても、研究会の重要性は非常に大きくなっています。

こうした研究会においては、様々な立場の参加者が自由闊達に議論できることが最も重要です。一方で、意見交換や育成・教育の範囲を大きく逸脱して、研究方法や研究分野、さらには発表スタイルなどを問題とする質問等を執拗に行い、発表者や聴講者に不快感や不利益を与えることは厳に慎まなければなりません。こうした問題が放置されると、研究会への参加だけでなく、学会活動全般、さらには教育システム情報学への関心の拡大に大きな悪影響を及ぼします。

教育システム情報学会研究会においては、意図の有無に関わらず、正当な根拠なく相手に不利益を与え、相手の尊厳を侵害する行為があった場合に、研究会担当委員および座長担当者が、質問の制止や質問者に退席の指示を行えるものとしています。研究会の参加者だけでなく、研究会に関連する全ての人々が快適で安心して研究会に寄与できる環境を維持し、研究分野のさらなる発展と、これを通じた社会貢献を行うために、研究会における皆様の建設的な質疑へのご協力をなにとぞよろしくお願いいたします。



Twitter アカウントの紹介

2016年8月下旬より、全国大会開催に合わせて学会の公式 Twitter アカウントを開設しました。本アカウントは原則として当学会の広報を目的とした配信専用としております。本学会へのご質問・お問い合わせは、学会事務局 (secretariat@jsise.org) へお願いします。また、Facebook アカウントとの連携もっており、Facebook ページの投稿が Twitter にも流れますので、ぜひご活用 (フォロー) ください。

<https://twitter.com/JsisePr>

◇ 2018年11月27日現在、フォロワー数 220 アカウント



Facebook ページもご覧ください

教育システム情報学会では Facebook ページを運用しています。本ページでは、

- ・論文・発表募集
- ・本学会に関連するイベントの情報

などを、いち早くお届けします。ぜひ、ご覧下さい。

Facebook ユーザの方は、ぜひ、「いいね」をお願いいたします。

<https://www.facebook.com/jsise.org/>

◇ 2018年11月27日現在、いいね 349 件、368 人フォロー

The screenshot shows the Facebook profile page for the Japanese Society for Information and Systems in Education (JSiSE). The page header includes the Facebook logo, a green 'アカウント登録' button, and login fields for email/phone number and password. The main content area has a green background with the text '教育システム情報学会さんはFacebookを利用しています。' and 'Facebookに登録して、教育システム情報学会さんや他の友達と交流を深めましょう。' Below this is the JSiSE logo and name '教育システム情報学会 団体'. The page also shows a post from '教育システム情報学会' dated 15時間前, titled '2016年度 全国大会 企画セッション テーマ募集のご案内'.



他団体 協賛・後援イベントのお知らせ

協賛 「シンポジウム「モバイル' 19」」

日時：2019年3月8日（金）

会場：産業技術総合研究所 臨海副都心センター

URL：<https://goo.gl/3rrVRA>



会費納入のお願い

2018 年度年会費納入についてのお願いです。学会の活動は皆様の会費で支えられていますので、ご協力のほどどうぞよろしくお願ひします。

「クレジット決済」、「コンビニ決済」をご希望の方は、下記のマイページよりお手続きをお願いいたします。

URL <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページの URL は、会員情報管理システムの業務委託をしている株式会社国際文献社のものです。

- 「銀行振込」をご希望の方は、下記のいずれかの口座へお振込みをお願いいたします。

■振込先

◆ゆうちょ銀行

口座記号番号：00180-6-709632

加入者名：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ： シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

※他金融機関からゆうちょ銀行に振込む場合

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

店名：〇一九 店（ゼロイチキユウ店） 預金種別：当座 口座番号：0709632

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ： シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆三菱東京 UFJ 銀行（金融機関コード：0005）

店名：上新庄支店（カミシンジョウ支店）

預金種別：普通 口座番号：0142708

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ： シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆みずほ銀行（金融機関コード：0001）

店名：茨木 支店（イバラキ支店）

預金種別：普通 口座番号：1399483

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ： シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

- 請求書・領収書（支払い後）は、マイページでオンライン発行できます。
- 請求書・領収書の郵送をご希望の方は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。

※団体名でお振込みいただきますと、個人を特定できない場合がございますので、振込名に会員番号またはお名前をご入力いただくか、難しい場合は、振込内容を事務局までご連絡いただければ幸いです。

※所属が変わった方は、マイページにログインした際に、連絡先などを変更するようお願いいたします。

【過年度年会費未納の方へ】

マイページでは、全ての年度の未納金額を合算した金額が請求されます。先に本年度以前の過年度分のお支払いを希望される方は、先に郵送された払込用紙付請求書をご利用になるか、学会事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡下さい。

※会費のお支払いが確認できない場合、学会からの送付物を停止させていただく場合があります。また、定款の定めに従って除名手続きを進めさせていただく場合があります。

ご不明な点は、事務局（secretariat@jsise.org）までお問合せ下さい。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
Tel:03-5937-5816 Fax:03-3368-2822 Email : secretariat@jsise.org



事務局より



会員専用ページのご案内

URL : <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページのURLは、会員情報管理システムの業務委託をしております株式会社国際文献社のものです。

■会員専用ページでは、以下のことができます。

1. 会員個人ページでの、現在の登録情報の確認・変更
2. 年会費納入状況の確認
3. 会費の納入、クレジット/コンビニ決済
4. パスワードの変更

会員種別、フリガナ、研究報告年間購読の登録等はマイページでは変更できませんので、お手数ですがJSiSE事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡をお願い致します。

ログインには、IDとパスワードが必要です。

パスワードをお忘れになった場合は、上記ウェブサイトにて照会できます。何かご不明な点がございましたら、JSiSE事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。

今後とも教育システム情報学会の活動にご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



入会のご案内

入会をご希望の方は、下記のサイトよりオンライン入会申込フォームにアクセスしていただき、お申し込みをお願いいたします。

URL : <http://www.jsise.org/admission/index.html>

☆キャンペーン☆

※現在、本学会開催の研究会等で、会場にて新規お申し込みいただいた方には、入会金を無料にさせて頂くというキャンペーンを行っております。
そちらも、合わせてご案内いただきますようお願いいたします。



新入会員のご紹介

下記の皆様が新しく入会されました。 2018年9月21日～2018年11月22日

会員名	会員種別	会員名	会員種別
安齋 勇樹	正会員	小林 博典	正会員
井筒 紫苑	学生会員	沼田 哲史	正会員

(計4名)